



2026年 5 月 21日 第2652回例会
5 月第 2 例会

RI会長メッセージ: UNITE FOR GOOD
「よいことのために手を取りあおう」

本年度会長テーマ
「ロータリーの友情を育もう」

「青少年奉仕月間」

◆ 会長時間 ◆

小橋会長



本日は「経営の神様」松下幸之助さんのお話です。

松下さんは、松下電器産業（現 パナソニック）の創業者として知らない人はいませんが、大阪RCの篤実な会員でもありました。

松下さんの背広の襟には、いつも松下の社章とともにロータリー・バッジが付けられていました。大阪RCの例会にメイクアップした人が当時SAAをやっていた松下さんにゲスト席まで丁重に案内されて恐縮したとか、別のある人がメイクアップした時は、会場で席を探していたら松下さんに手招きされて隣に座られ「君、松下君と呼んでくれたまえ」と言われて戸惑った、とかのエピソードが残されています。松下さんは、ロータリーの大原則は、「平等」であり、ロータリアン同士、平等な仲間として接しておられたのだと思います。

現在も、パナソニックのウェブサイト经营理念として、松下さんが昭和4年に掲げた「綱領」が載っています。「綱領：産業人タルノ本分ニ徹シ 社会生活ノ改善ト向上ヲ図リ世界文化ノ進展ニ寄与センコトヲ期ス」。

松下さんが「奉仕」に目覚めたのは、昭和7（1932）年に、天理教本部を見学に行った時、そこで生き生きと奉仕活動をする信者を見て、社会的使命のために働くことが幸福を導くことを悟っ

たのです。松下さんが37歳のときでした。後に松下さんはこの年を「命知元年」と呼んでいます。その後、松下さんが昭和55（1980）年に書いた本の中で、「企業の社会的責任」とは何かを定義しています。

『企業の社会的責任』とは、①企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人びとの幸せに貢献していくこと。②その事業活動から適正な利益を生み出し、それをいろいろな形で国家社会に還元していくこと。③そうした企業活動の過程が、社会と調和したものではなくてはならないこと。

これは、ロータリーの職業奉仕理念そのものにも思えます。

● 会務報告

山縣幹事



※新会員候補者の照会を配布しておりますので、よろしくお願いします。

※例会終了後、4階「カメラア」において第6回クラブ協議会を開催いたしますので、理事役員及び各委員長は出席願います。

● 委員会報告

✳ プログラム・出席委員会



出席報告 荒谷君

本日（5月21日・木曜日）

会員数	90名	出席者	73名
欠席者	17名	ご来客	0名
ご来賓	0名	ゲスト	0名
		計	73名

4週前の例会2026年4月9日・木曜日

出席率 100%



✳ 社会・青少年奉仕委員会 土井(隆)副委員長

次週例会は社会・青少年奉仕部門クラブフォーラムを開催いたします。卓話時間が10分延長になります。

● 青少年交換派遣学生 月例報告書（4月分）

■ 石井 友菜

● 健康状態

特に問題はなく元気です。

● 学校の状況

学校には仲のいい友達がたくさんいます。April foolではいつも一緒にご飯を食べる友達が、私にイタズラするために魚のイラストが描いてある紙をパーカーのフードに入れてきたり、ワッと言い合って驚かしあったりしました。友達のおかげで楽しいApril foolを過ごすことができました。

● ホストファミリーとの関係

ホストファミリーとの関係は良好で、April foolではホストファミリーが私を驚かすためにさまざまなイタズラを仕込んでくれました。血が出る水道や、家に帰ってきたら私の部屋が目玉だらけだったり、友達とホストファミ

リーのおかげでとても楽しいApril foolを過ごしました。

イースターでは、卵探しをホストシスターと一緒に رفتり、4月のイベントを思いっきり楽しむことができました。

● ホストロータリークラブとの関係

ホストロータリーとの関係はとても良好です。4月の19、20日に最後のコンファレンスがあったのですが、ほかの地区のロータリアンの方々に仲がいいねとおっしゃっていただけるほどカウンセラーの方との関係は良好です。カウンセラーの方は私のことを孫のように扱ってくださり、様々な面でサポートして下さる方で、出会えて本当に良かったなとも思っています。

● その他近況等の報告

土日は大体友達と遊びに行ったりして、たくさん良い友達に恵まれています。

イースターでは友達の家でも卵探しをし、計3回のイースターを過ごしました。一緒に映画を観たり、楽しい時間を過ごしています。第二ホストファミリーと第三ホストファミリーが友達なので、一緒にキャンプに行きました。キャンプでは第二ホストシスターの友達があり、年齢はまったく違うのですが仲が良く、楽しいキャンプを過ごしました。



● 同好会報告

紫友会 穴戸世話人

5月例会は、5月15～17日の行程で北海道へ行ってまいりました。

この時期の北海道は桜がほぼ散り終わり、グリーン上に桜の花びらが散っているホールもありました。そんな中、土曜日に北海道ブルックスC.C.にて開催された第11回例会では、堅実なゴルフを展開し、OUT46 IN46 グロス92で回った土井(隆)君が見事優勝されました。

2位には三吉君、3位には田原君。シニアクラスの優勝は田川君。バスグロはOUT42 IN42 グロス82で回った田原君が獲得され「80以上打ったらバスグロ返上せい!」という声も飛び交いながら、大いに盛り上がりました。プービー賞は村上(健)君でした。

夜の懇親会は北海道ならではの海産物を楽しみ、日本酒1升瓶を飲み干し、締めは札幌ラーメン。最終日は、ゴルフ場のテラスで大自然を眺めながらのジンギスカン食べ放題と、北海道を満喫し、日曜日に無事広島に戻ってまいりました。

VFツアーも組み込まれており、金曜日の「TAHARAカップ」は土井(隆)君が優勝。土曜日の「ニシヒロオープン」も土井(隆)君が制し2連勝。日曜日の「コアサトーナメント」は八條君が優勝、2位はまたしても土井(隆)君という結果となりました。

次回例会は6月13日、芸南C.C.にて開催予定です。



● 会員記念日

祝 連続出席100% (10名)

岡野君 (42年)	田中君 (33年)
前橋君 (21年)	鈴木君 (18年)
新本君 (13年)	松田君 (13年)
北村君 (10年)	石山君 (10年)
田島君 (8年)	下岡君 (3年)

連続出席記念品贈呈



10年 北村 和之 君



10年 石山 成之 君

🎁 ご結婚記念日おめでとうございます。

(7名)

土井(英)君	土井(隆)君	柳原君
古本君	菊地君	加藤君
岡野君		

● スマイルボックス SAA 大本君

👤 福田さん (大枚)

4月に退会されました福田さんから大枚を出宝いただいております。

👤 長谷川(行)君 (自主申告・金一封)

5月19日付け経済レポート「ウの日タカの日」に当社ナガ・ツキが地域貢献ということで紹介していただきました。

令和2年から6回目となりますが近隣の保育園・小中学校及び特別支援学校へ希望の品を寄贈させていただいていることの紹介です。

👤 森信君 (自主申告・トリプル)

4月24日～5月19日まで世界一周一人旅に行っていました。この間8カ国計11カ所を回りました。暑いところ寒いところなど訪れ、いろいろ失敗や手違い等もありましたが、総じて気楽な楽しい旅でした。

今日からしばらくは仕事に専念します。

少し落ち着いたら今度は東回りの計画を始めたいと思っています。この間つたないFacebookを見ていただいた皆様にもお付き合いいただき

感謝申し上げます。

ロータリーの友の編集者から当クラブの週報を見られて、「採用する事は確約できないが、ロータリアンで世界一周する人は珍しいので、ぜひ投稿してほしい」というメールが事務局を通して私の手元に届きました。

落ち着いたら筆を執ってみたいと思います。

田島君（自主申告・トリプル）

広島アルミの新郷工場に所属する技術員、下護君、大田君、谷本君は令和8年度の「科学技術部門の文部科学大臣賞」の対象が4種類ある中で、「創意工夫功労者賞」を受賞しました。

3人は人手のかかる外観検査工程で自動外観検査装置を開発、一ライン2名の省人化を達成したことが受賞に繋がりました。キーエンスのカメラを使って、良品・不良品の判別が難しい判定を独自のソフト開発で目標を達成し、今回の受賞になりました。

大地君

5月14日の中国新聞に、私の生まれ故郷・岩国市玖珂町にあるいろり山賊が掲載されていました。とても懐かしく嬉しかったので皆様にご紹介させていただきます。

記事の内容は、「免許を取ったらまず山賊へ」はなぜ継承されてきたのかについてでした。山賊を経営する高橋社長は、その理由について、1971年の開店からしばらく24時間営業をしていて、当時では珍しく広島市の若者が深夜に集まったことも発端ではないかと語っています。

紫友会

優勝の土井(隆)君はダブル、2位の三吉君、シニア優勝の田川君、ブービー賞の村上(健)君、出宝お願いいたします。

3位とベスグロの田原君は合わせてダブルをお願いします。

● 卓話予告

日時	テーマ
6/4(木)	青少年交換受け入れ学生による帰国前発表 Jack Tyler Hampton 君

■ 新会員卓話



健康経営について

菊地 秀典君

本日は、住友生命保険相互会社 中国四国総合法人部の菊地 秀典君より、「健康経営」についてお話をいただきました。

菊地君は、住友生命広島支社の営業職員とも連携しながら、主に広島の法人企業を支援する業務に携わっておられます。ご出身は栃木県足利市で、大学卒業後に住友生命へ入社され、全国各地で勤務されたのち、昨年4月に広島へ着任されました。趣味は城巡りとのことでした。

冒頭では、ご自身の名字である「菊地」と「菊池」のどちらが多いかという話題で会場を和ませられました。一般的には西日本では「菊池」の印象が強いものの、全国的には「菊地」の方が若干多いとのこと、「これを機会に、地面の“地”の菊地と覚えていただければ」と、親しみやすく自己紹介されました。

本題では、健康経営の考え方について説明されました。健康経営とは、従業員の健康保持・増進への取り組みを、将来的に企業の収益性や価値を高める投資として捉え、経営的な視点から戦略的に実践することです。従業員の健康増進は、活力の向上や生産性の向上につながり、結果として企業の業績向上や組織価値の向上につながることが期待されています。

また、少子高齢化や生産年齢人口の減少が進む中で、企業にとって人材不足は大きな課題となっています。特に中小企業では、一人ひとりの従業員の離職や休職が事業に与える影響も大きく、従業員の健康管理はこれまで以上に重要になっています。

健康経営に取り組むことにより、体調不良のまま出勤している状態で生産性が低下する「プレゼンティーズム」や、健康問題による仕事の欠勤「アブセンティーズム」の減少が期待できます。さらに、従業員の健康意識の向上は、職場のエンゲージメント向上にもつながります。

ジメント向上、コミュニケーションの活性化、労災防止、働き方改革、ハラスメント防止などにもつながると述べられました。

近年では、学生や保護者が就職先を選ぶ際にも、企業が従業員を大切にしているか、働きやすい環境づくりに取り組んでいるかを重視する傾向があります。その意味でも、健康経営への取り組みを社外へ発信することは、採用促進や人材定着にも効果があるとのことでした。

最後に、菊地君は健康経営エキスパートアドバイザーの資格をお持ちであり、健康経営優良法人認定制度の申請支援などについても相談に応じることができるで紹介されました。企業にとっての健康経営は、単なる福利厚生ではなく、これからの時代における重要な経営戦略であることを、分かりやすくお話いただきました。



住宅着工数の推移 とセングク木材の 新たな取り組み

千代山 浩二 君

千代山君より、セングク木材株式会社の事業内容と、近年の住宅着工数の推移、さらに同社の新たな取り組みについてお話をいただきました。

セングク木材株式会社は、来年で創業35年を迎える会社です。社名から「木材を販売している会社」と思われることも多いそうですが、実際には住宅関連事業を中心に展開されています。主な事業は、住宅用地を造成し、分譲住宅を建築・販売することで、年間およそ50棟の住宅を手掛けておられます。また、リフォーム事業も行っており、年間約150件の施工実績があるとのことでした。

本題では、近年の住宅着工数の推移について説明されました。全国の住宅着工数は、昭和62年頃には約173万戸であったものの、その後は右肩下がりになり減少してきました。耐震偽装問題を受けた建築基準法改正、リーマンショック、消費増税、コロナ禍など、さまざまな社会的要因を経て、住宅業界は厳しい状況が続いています。今後も住宅

着工数は大きく回復する見通しは立ちにくく、業界全体として大きな転換期を迎えているとのことでした。

住宅価格の高騰、建築用地の不足、人手不足、消費者マインドの低下なども重なり、住宅業界は大きな課題を抱えています。そうした状況の中で、セングク木材では、従来の住宅事業に加え、法人向けの建築・内装・家具製作など、住宅以外の分野にも取り組みを広げておられます。

そのきっかけの一つが、ロータリークラブへの入会だったとのことでした。入会后、多くの企業経営者の方々と接する中で、自社の持つ建築や木材加工の技術が、住宅以外の場面でも役に立つのではないかと考えるようになりました。現在では、法人企業との仕事も少しずつ増えてきているそうです。

具体的な事例として、分譲住宅では、単に土地と建物を販売するのではなく、モデルハウスのように家具やインテリア、カーテンなどを整えた状態で販売されています。設計、施工、材料加工、家具製作まで自社で行うことができる点が、同社の大きな強みです。

また、注文住宅の事例では、木材を活かした住まいづくりに取り組まれ、製材から加工、仕上げまで自社で行った住宅を完成させられました。さらに、近年では木造工場の建設にも取り組んでおられます。従来、木造建築は中間に柱が必要で、大きな空間をつくりにくいという弱点がありましたが、現在では技術の進歩により、広いスパンを確保した木造建築も可能になっているとのことでした。

そのほか、企業の社員食堂を自由で心地よい空間へ改修した内装工事、オフィス家具の製作、会社看板やサインの製作、さらには宮島町内のカフェやショップ、美容院の内装など、幅広い分野で実績を重ねておられます。

千代山君は、住宅づくりを今後も継続しながら、自社の技術や経験を活かし、法人企業のさまざまな課題解決にも役立っていききたいと述べられました。住宅業界を取り巻く環境が厳しさを増す中で、従来の枠にとらわれず、新たな可能性を見出していく姿勢が印象的な卓話でした。



1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？

例会日・木曜日 12:30～13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 小橋 敏幸
幹 事 山縣 浩一

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp
作 成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC

検索

